



題字 一雄 名 浜

遭難対策に対する提言



常任理事 川辺柳一

岳連活動に占める遭難事業の割合は、以外と多いのに驚かされ、それに費す労力と、財政的支出は見過ごされないものがある。そこで遭難対策について、より効果的な運用を計るべき時点として提言を考察してみたい。

まず登山活動が活発になればなるほど、また高度な内容に発展すれば、するほど、その程度に応じた危険は増し、事故に遭遇する確率は高まる。これは登山の持つ宿命的な欠点であり、反面大きな魅力でもあるのだが、岳連としてどのように判断し、対策したらよいか考えてみたい。

まず遭難対策の意味についてはどうか？ 遭難と言えば、短絡的に救助活動に向けられがちな一般の風潮があるが、遭難とは、「遭難防止」と「遭難救助」と言う二面を持っているのであり、分けて考えてみるべきと思う。どうしても地味な、防止活動より、活発な救助活動の面が目向けられてしまいが、両者を対等の立場で扱うよう、認識を改めたい。

岳連内においては、防止活動について見れば、直接的には、合宿が取られたように、これが前例と

前後の「検討と報告」の両研究会があり、相互の情報交換によって危険防止には、大いに役立って居る。この問題については、別の機会に譲るとしても改善されることを期待したい。

前後の「検討と報告」の両研究会より、積雪期における谷川岳への入山は不可能になることもありうる。この問題については、別の機会に譲るとしても改善されることを期待したい。

さて関係者の努力で、充実した内容のものとなった救助隊を主体とした救助活動の面ではどうか。救助技術については、一般に、谷川岳が主体であり、近年の例をあげるとその内容も、初歩的な技術（知識）不足からの留意を要するが、新技術が有効に活用出来るかどうかについては疑問の残るところである。効果的に活用するためには、その前提となる隊員の安全と、救出の迅速化について、研究の余地が残されている。

幸せな事に、他の県に比べれば、群馬の場合大きな事故が、谷川岳に集中し、活動範囲がせいぜい、たく別物である。

最後に遭難対策に対する私見を述べてみたい。

- 一 谷川の岩場ルートを目ざす登山者は所属する団体に事故を解決する能力の有る者にかぎる。
- 二 ヘリコプターの活用を計り救助隊員・資材の運搬などに利用し、その費用は受益者の負担とする。
- 三 救助隊の日常活動に係わる費用については、県からの助成金で賄うようにする。
- 四 救助用具については、指導センターに県費で準備する（備品までを少ない岳連財政で負担するのは不当である）
- 五 救助活動に係わる費用についての予算の確立は再検討を行なう（赤城山）とか、「伊香保の嶺呂」とか、三、四項目に関連してバラバラの三、四項目とする。
- 六 隊員の身分保障について改善されなければならない。保険の問題・手当や訓練時における保障など解決しなければならぬ。

岳連の行事予定

- 七月 谷川岳安全登山の日
- 八月 尾瀬美運動参加
- 九月 カラコルム偵察隊報告会

嶺呂のいわれ

嶺呂とは、万葉集の中に出てくる言葉で、嶺は、山々、峰々の意味で、呂は親愛・感動の念をこめて使う接尾語です。万葉集、上毛野国の歌の中に、「久呂保の嶺呂（赤城山）とか、「伊香保の嶺呂（榛名山）」などという風に使われており、群馬岳連の会報の各にふさわしいものと思えます。命名者は浜名会長です。

久呂保の嶺呂は現在の赤城山のことで、クロホのクロは山頂付近の黒々とした針葉樹林が遠望されることから、ホは高くそびえたつ様子を言う言葉です。伊香保の嶺呂のイカホは、いかつい高い山、即ち国の中央に大きな山々がそびえたつていよう様子を表現しています。いずれも麓の人々が親愛をこめて呼んでいたようです。

オリエンテーリング入門

指導員 悴 田 正 也

ポイントO.Lの方法

イ・参加者は受け付けを行ない、クラス分けとスタート順を知らされる。赤ボールペンを持参・O.L用コンパスは借用出来る。チェックカードを渡される。

ロ・スタートが近づくときスタートブロックに入り、地図を渡される。

ハ・スタートは通常一三分間隔で行なわれることが多い。

ニ・スタート近くに置かれたマスターマップを自分の地図に正確にうつす。マスターマップには、その地点(△印)・ゴール地点(◎印)の他、自分がまわってくるべきポストとその順が直径五ミリの円で示され、1、12位のポスト位置があり、順々に直線で結ばれて書かれている。

ホ・磁北線をひく、磁北線とは、磁石の示す南北の方向のこと、地図上の北と真北との間に、西偏約六〜七度のずれ(群馬)があるので、あらかじめ磁石の示す北の線と自分の行く方向の角度を知るために、この磁北線をかく。

(なお、初心者には、スタート前に地図の読み方とコンパスの使い方の基礎講習がある。)

ヘ・地図とコンパスをたよりにポストを探す。地図は通常一万分の一〜二・五万分の一の地形図をつかい、記号や等高線を手がかりにして、現在地や目的地をさがし、尾根に居るとか、沢の入口であるとか、田と林の境にきたとか、をば間に合う。

ハ・等高線 これも地形図記号の一つですが、性質と特色を知り、間隔や曲がり工合などから、尾根・沢・頂上・峠(鞍部)・肩・コブなどを読みとり、現在地と目的地の地形を知る。

コンパスの使い方 O.Lには通常シルバコンパスなどの専用コンパスをつかう。つまり、方向磁石・物指し・全分度器を一つにバックしたもので、地図上に磁北線をひき、この線と自分の行きたい方向への角度を計り、コンパス上に置きかえる他、距離や方位を知ることが出来る。山登りでは、磁北と真北の差(偏差)は大きな問題とはならないが、O.Lにおいては、この差が大切である。例えば、西偏六度の差が、一〇〇m先の目標物へ進む場合に、一〇二mもの差を生ずるのである。

基礎体力 O.Lは自分の能力、技術、体力によつていろいろなクラスに参加出来るが、やはりクロスカントリー的な要素も大きいので充分な走力が必要である。

以上、オリエンテーリングについて基礎的な事項を述べたが、登山愛好者にとつても、地図読みや

ち、道路・目標物(三角点・送電線・記念碑など)・建物及び建物記号(独立家屋・神社など)・植生と土地利用(針葉樹・桑畑など)・境界(町村界・植生界など)二、三〇〇ぐらいの記号を知つていれ

体力づくりに好適なスポーツであることは勿論、自然を舞台として行なわれるという中に、自然へのつながり、自然保護などの心を養い、余暇の活用・自ら参加する

一般登山者対象救助訓練(雪上)

五月十八日、谷川岳マチガ沢に於いて、一般登山者を対象とした救助訓練が行なわれた。これは、折の遭難者を無事収容した。そのために開講が予定より遅れてしまったが、参加者にとっては事故発生の状況の報告や、救助隊の活動など、大変参考になり、又自分達で実際に行なつた訓練は意義のあるものであった。

今回は、雪崩による遭難者を、ビッケルで探索すること、スキューザリによる搬出の訓練を行なつた。参加者は約三〇名となり、参加した救助隊員の氏名

西山、田中、加藤 中原、桜井、阿久 沢、新井、塩野

参加者の所属 山岳会 前橋山岳会、高崎山岳会、太山岳会、群馬登山会、大間天山岳会、群馬むすびの会、群馬ミヤマ山岳会

四月二十日、日山協第2種公認指導員の検定と、地区指導員の検定を合わせて行なわれた。評価は、日山協の公認指導員検定基準によつて行なわれ、今回の内容は岩登り技術、生活技術、登山一般についてのペーパーテスト、天気図と五項目を行なつた。受検者は第2種指導員検定が九人、地区指導員が十名であるが、理論と実技を要求されるだけに、確かな基礎技術が身についた登山経験がないと難しい。最初は慣れぬ検定のために、実力も出ない様であったが、徐々に指導員らしい態度になつてきたようである。検定会は合格だけでなく、これからの指導員の養成にということも必要と思われる。今まで基礎技術の講習会に参加してきた者は理論、実技ともに申し分なく、これからは指導法ということが課題となるであろう。なお、氷雪技術については昨年マチガ沢に於いて行なわれ、今回の検定と合わせて総合評価が行なわれる。

公認指導員検定会

四月二十日、日山協第2種公認指導員の検定と、地区指導員の検定を合わせて行なわれた。評価は、日山協の公認指導員検定基準によつて行なわれ、今回の内容は岩登り技術、生活技術、登山一般についてのペーパーテスト、天気図と五項目を行なつた。受検者は第2種指導員検定が九人、地区指導員が十名であるが、理論と実技を要求されるだけに、確かな基礎技術が身についた登山経験がないと難しい。最初は慣れぬ検定のために、実力も出ない様であったが、徐々に指導員らしい態度になつてきたようである。検定会は合格だけでなく、これからの指導員の養成にということも必要と思われる。今まで基礎技術の講習会に参加してきた者は理論、実技ともに申し分なく、これからは指導法ということが課題となるであろう。なお、氷雪技術については昨年マチガ沢に於いて行なわれ、今回の検定と合わせて総合評価が行なわれる。

五月十八日、谷川岳マチガ沢に於いて、一般登山者を対象とした救助訓練が行なわれた。これは、折の遭難者を無事収容した。そのために開講が予定より遅れてしまったが、参加者にとっては事故発生の状況の報告や、救助隊の活動など、大変参考になり、又自分達で実際に行なつた訓練は意義のあるものであった。

今回は、雪崩による遭難者を、ビッケルで探索すること、スキューザリによる搬出の訓練を行なつた。参加者は約三〇名となり、参加した救助隊員の氏名

西山、田中、加藤 中原、桜井、阿久 沢、新井、塩野

参加者の所属 山岳会 前橋山岳会、高崎山岳会、太山岳会、群馬登山会、大間天山岳会、群馬むすびの会、群馬ミヤマ山岳会

四月二十日、日山協第2種公認指導員の検定と、地区指導員の検定を合わせて行なわれた。評価は、日山協の公認指導員検定基準によつて行なわれ、今回の内容は岩登り技術、生活技術、登山一般についてのペーパーテスト、天気図と五項目を行なつた。受検者は第2種指導員検定が九人、地区指導員が十名であるが、理論と実技を要求されるだけに、確かな基礎技術が身についた登山経験がないと難しい。最初は慣れぬ検定のために、実力も出ない様であったが、徐々に指導員らしい態度になつてきたようである。検定会は合格だけでなく、これからの指導員の養成にということも必要と思われる。今まで基礎技術の講習会に参加してきた者は理論、実技ともに申し分なく、これからは指導法ということが課題となるであろう。なお、氷雪技術については昨年マチガ沢に於いて行なわれ、今回の検定と合わせて総合評価が行なわれる。



芝ゾリによる搬出法 (マチガ沢S字状付近)

検定員 赤石 春親
田中 成幸
太田 忠行
樋口 宗平
中原 正喜
桜井 進
大谷 清
高田 政美

検定員 赤石 春親
田中 成幸
太田 忠行
樋口 宗平
中原 正喜
桜井 進
大谷 清
高田 政美

76ニューモデルスキー特売中

山とスキー専門・白緑グループ

ピーヨンスポーツ

高崎市榎物町 5 4-2
TEL 0273-26-3888

山とスキーの店

ヨシザワ

高崎市鞆町 8
デンワ 0273(22)5366

指導員総会報告

日時 四月三日(火)一八時
場所 体協会館
一八名が参加し、熱心に討議が行なわれました。会に先だち、長年指導員として、また岳連の先輩格として活躍なされた故高塚和雄氏に対して、一分間の黙禱を捧げ、御冥福を祈りました。

その他、会費未納に関する件、地区指導員の更新の件、高体連との結びつきの件、登山月報の配布の件などについての話し合いが行なわれました。

参加者氏名(敬称略)
赤石・田中・太田・原田・樋口・堀口・吉田・阿久沢・悴田・大沢・中原・下平・高田・阪本・桜井・高橋・石井・大谷

群馬登山会一諏訪ふさ江・木村京子・松田英紀・木暮茂夫・茂木貴太郎・山口茂樹
大田一鈴木富士雄・鈴木茂
群馬カモシカ滝野律子・神小柴君子
群馬ミヤマ一谷弘行・阿久沢芳雄・内島正男
群馬岳友会一須藤昇・北爪利秋・群馬むすびの会一須田栄一・木暮寛・和田伸雄・岡田幸子・外所桂一・桜井繁雄・木部弘之・角田悦子・阿久津松代
群馬大学山岳部一天川昇・吉田喜秋・萩原明弘
星一榎一干木良俊彦
高崎一八木勝彦
日新電機一小林信夫
荒川岳会一高橋秀明

一、四九年度行事・会計報告
行事が大変多くなったが、自分達の研修が少ないのではないかと意見が出、新年度行事に盛り込むことになった。

一、五〇年度行事
四・二二 指導員総会 谷川
五・一八 一般救助訓練 谷川
五・二五 春山講習会 谷川
六・下旬 天気図講習会 前橋
六・下旬 団体予選 谷川
七・六 谷川山開き 谷川
七・一三 岩登り講習会 未定
八・三 尾瀬美化運動 未定
十・下旬 高校生登山教室 未定
五・二・一 氷雪講習会 未定
二・八 新年会 未定
一、五〇年度予算案 略
一、その他の議事

本年から、成年三・少年三・監督一名計七名になり、将来は区わけもかわり、得点種目になる予定です。くわしくは嶺呂三号の赤石氏の文章をみて下さい。とりあえず本年は成人は指導員会で、少

中原正喜・桜井進・阿久沢広・月岡武久・高橋啓太郎
参加者
群馬登山会一諏訪ふさ江・木村京子・松田英紀・木暮茂夫・茂木貴太郎・山口茂樹
大田一鈴木富士雄・鈴木茂
群馬カモシカ滝野律子・神小柴君子
群馬ミヤマ一谷弘行・阿久沢芳雄・内島正男
群馬岳友会一須藤昇・北爪利秋・群馬むすびの会一須田栄一・木暮寛・和田伸雄・岡田幸子・外所桂一・桜井繁雄・木部弘之・角田悦子・阿久津松代
群馬大学山岳部一天川昇・吉田喜秋・萩原明弘
星一榎一干木良俊彦
高崎一八木勝彦
日新電機一小林信夫
荒川岳会一高橋秀明

岳界通信

新加盟団体の紹介
日新電機前橋製作所山岳部

所在地・前橋市総社町総社二二番地。代表 高橋賢志。会員数 二三名(男子一九名、女子四名) 四九年一〇月加盟。前橋山岳会、群馬ミヤマ山岳会の推せんです。

中之条山の会
所在地・吾妻郡中之条町大字中之条町九四九番地の三。長谷川商店内。代表 長谷川勇。会員数 二〇名。五〇年六月加盟。吾妻山岳会の推せんです。

救助隊結団式

日時 四月一六日一九時
場所 県体協会館
五〇年度の群馬岳連山岳遭難救助隊の結団式が行なわれ、来賓の泉警外勤課・木村氏、体育課・角田氏などの方々から激励の挨拶がありました。

その後、西山隊長、田中副隊長から訓辞と隊の目的や注意事項の説明があり、隊員の中から互選により新委員の選出が行なわれました。

新隊員名簿
委員・中原正喜(ミヤマ)、桜井進(太田)、阿久沢廣(登高会)、塩野隆(沼田)、新井邦光(高崎)
隊員・笛木友一(沼田)、宇田川邦司(〃)、青木睦佳(〃)、木内健一(〃)、大竹房雄(〃)、竹内博基(〃)

報告されています。
境町山の会
早いもので事故以来八年も経過したのになら、記憶に生々しいものがありますが、境町山の会から報告書が発行されました。冬山合宿の穂高沢において、雪崩により、八名の入道が遭難したもので、報告書は遭難原因の追究と反省、家族や仲間の手記となつていきます。

生方大吉氏逝去
新治山岳会の生方大吉氏が6月16日交通事故で急逝されました。ご冥福を祈ります。

境町山の会展開
去る六月二九日、境町中央公民館に於いて、境町山の会が行われた。山岳写真、スライド、登山用具等の展示、使用説明などが中心に行われた。

遭難報告書の紹介
高崎大ワンダーフォーゲル部加盟団体ではありませんが、岳遭難事故報告として紹介します。昨年一月中旬、蓬峠一三峠間の徒走中、吹雪に逢、六名の人達が遭難しましたが、全員無事救出された幸運な事故でした。

会報寄贈御礼
「岡山岳連 創刊号」
「兵庫山岳」九六号・九七号
「愛知岳連ニュース」一六一号
「大阪府岳連 FOM ニュース」(大阪府岳連) No. 五三
「ときわ木」(神奈川岳連報) 四八号

「青と白の厳しさ」増版
一九七二年、群馬岳連がゲウラギリIV峰をめざした時の正式報告書「青と白の厳しさ」は昨年五月に発行されましたが、好評で全て売り切れてしまいました。このたび増版されましたので希望者は、伊勢崎市中央町三十八石井スポーツ内
群馬岳連海外登山研究会
0270(25)〇二七二
(ケース付)一、四〇〇円・送料二〇〇円

編集後記
物事すべて、始めることに勇気もいるが、続ける努力というものが難しい。ふらふらと編集の中に入ってしまったために、集まらない原稿も早く引受けてしまい、書いては訂正、見なおしては原稿用紙を丸めてポイ、時計の針は少しも休んでくれず泣くにも泣けずとにかくがんばるしか手はない様である。

本来、編集するということは、他人の原稿を感謝しながら割りつけし、読み易い様に工夫することではないだろうか。でもいつも帰りは遅くなってしまいが、会報も誰かが何かを書かないと続かない。今回は広告集めもしてみたいが原稿が少ない時は大助かりである。とにかく誰もが文章を書くことは苦手らしい。でも、もう少し努力して多くの人に原稿を寄せてもらいたい。(高田)



雪上技術講習会